

2020年度 事業計画

(2020年1月1日より12月31日まで)

事業運営の基本方針

建築に関する人々の関心を高め、建築を通して総合的な文化への意識向上を目的とし、4つのカテゴリーから展示会を開催する。ギャラリー会場での展示会開催中に、ワークショップや討論会、講演会等を開催するとともに、他の公益法人等とも連携し、より広範な深い文化発信を行う。

1. 公益目的事業

(1) 展示事業 (定款 第4条第1号～第3号)

① 建築文化及び関連する支援活動

ア 「マギーズの庭 展」

内 容 マギー女史が残した遺言には、外界に左右されない「安心できる庭」の必要性をあげ、室内から見える外部の庭や室内の坪庭は建築の内部空間を豊かなものにする重要な役割を果たすと言っている。マギーズセンターの理念を通してランドスケープの大切さ、また建築空間と庭の関係性を探る。また週末医療における建築の果たせる役割を考える。

期 間 2020年3月10日から2020年5月14日まで

イ 「ギャラリーエークウッド15周年記念 展」

内 容 ギャラリーエークウッドは、2003年に準備委員会を設立し、2005年2/24プレイベント現代アート展・祐成政徳「Another side of CANAL」でプレオープン、その後、2005年9/16に石元泰博写真展「都市への視線」でグランドオープンした。2011年に一般財団法人設立、2013年には公益財団法人の認定を受け、現代アート、建築文化、暮らし、環境、市民参加等をテーマに2019年12月までに106の企画を実現し、2020年に15周年を迎える。これを記念し、これまでの活動を総括するとともに、これからの展望を図る展示とイベントを行う。

期 間 2020年12月11日から2021年1月21日まで

② 教育普及活動展

ウ 「人・建築・都市を記憶するレンズ付フィルムによる写真 展」

100+20人の東京2019-2020～South編～

内 容 レンズ付きフィルム「写ルンです」を使って、街並みを記録する「100人の写真展」シリーズ。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、激変する東京の街並みや建築を、100人の一般参加者とエークウッドが招聘する20人の招待作家が、2019年・2020年の2年連続で記録する。市民目線や専門家の視点から今の東京の街、建築の魅力を発掘する。また、東京の見どころとなる建築を紹介するガイドマップをバイリンガルで作成し、来館者を中心に配布予定。

期 間 2020年5月21日から2020年7月21日まで (撮影会は3/14～3/22)

エ 「フィリップ・ワイズベッカーが描く暮らしの道具 展」

内 容 ワイズベッカー氏は、日本のモノづくりの道具、とりわけ大工道具に美を見出し、鉋、鋸、鑿などに興味を持ち、日本の職人の仕事の裏にある哲学に気付いたという。2013年には竹中大工道具館のイメージドローイングも描いた。本展では、ワイズベッカー氏の視線を通して、日本の用の美を紐解き、日常に潜む日本の感性やモノづくりの大切さを考える

期 間 2020年10月22日から2020年12月4日まで

③ 時代を反映したトピックス展

オ 「アイノ&アルヴァシェアヴィジョン 展」

内 容 1920年代後半、国際的なモダニズムデザインの、シンプル、機能的、低コストによる量産化といった考え方は、まさにアイノ&アルヴァ・アールト二人の思い=思想とも重なり合うものであった。「暮らしの中こそデザインを」という視点は自国フィンランドの環境特性をふまえ、自然から感受した要素をモチーフとしたデザインを通じ、彼らなりのモダニズムに対する答を探求していくことでもあった。本展は、アルヴァとアイノが世界的建築家への道を歩み始めた1924年からアイノが亡くなる1954年までの25年に果たした仕事の中で、特にアイノの関わりが深いと思われる、高齢者や女性、子どもなどの社会的弱者に対する建築家としての視線や、衛生や機能、効率を重視したインテリア設計の思想を自邸と1930年代に国際的にも課題となっていた労働者のための「小規模住宅の実現」と題した展示を企画展にフォーカスを当てて紹介する。

期 間 2019年12月17日から2020年2月27日まで

④ 現代アート展

カ 越境する身体 —義手義足で取り払われた心の壁— 展」

内 容 古来より人々は何かの事情で生じた身体の不足、これによって生じる心の陰を時に祈ることで癒し、物理的には科学技術を駆使した道具によって補ってきた。近年ではパラリンピックに代表されるスポーツによりポジティブなイメージへの転換が図られている。展覧会では最先端の義肢、車いすなどの道具の紹介とともに、義肢のアスリートや女性たちを捉えた写真家の作品などを展示。すべての人に関わる衣服や家具、建築のバリアフリー、そしてユニバーサルデザインの問題へと展開させ、未来の社会を考える。

期 間 2020年7月30日から2020年9月24日まで

(2) シンポジウム・ワークショップ (定款 第4条第4号)

文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催

各展覧会期間中に展示に関するシンポジウム・ワークショップ・イベントを行う。

(3) 巡回展・アウトリーチ (定款 第4条第7号)

この財団の目的を達成するために必要な事業

ア 「神戸市立博物館展 特別協力 ギャラリーエークウッド紹介パネル展示、100人の写真展 神戸居留地の展示企画協力」

内 容 世田谷美術館で2016年に開催された「竹中工務店400年の夢」の神戸展に特別協力し、ギャラリーエークウッドの活動紹介と100人の写真展 神戸居留地の展示企画協力をを行う。

期 間 2020年1月11日から2020年3月1日まで

場 所 神戸市立博物館

イ 「アイノ&アルヴァシェアヴィジョン巡回展 —木材曲げ加工の技術革新— 竹中大工道具館」

内 容 アアルトの木工技術に焦点を当てて紹介し、世界中で愛されるアアルトの椅子の無垢材をL字型に曲げる「L-レッグ」と、積層合板による「ラメラ曲げ木」の開発について、整形から商品化までの道のりを辿

ります
期 間 2020年3月28日から2020年6月7日まで
場 所 竹中大工道具館

ウ 「アイノ&アルヴァシエアヴィジョン公立美術館巡回展 準備事業 図録・展示実施
コンセプト他」

内 容 2021年度に開催の公立美術館使用の展示コンセプト、共通図録の制
作を当年度実施する。

場 所 世田谷美術館
2021年2月6日(木) - 2021年4月11日(土)
兵庫県立美術館
2021年7月3日(土) - 2021年8月29日(日)

エ 裏磐梯高原ホテル企画1(中村郁夫写真展(仮))

内 容 裏磐梯2013年開催後2回目となる。「夏の海」をテーマに紹介。

期 間 2020年8月頃

場 所 裏磐梯高原ホテル

オ 裏磐梯高原ホテル企画2(フィンランドの冬ごもり4)

内 容 連続企画展。2020年度は4回目。テーマを変えフィンランドの暮らしを
紹介。

期 間 2020年12月から2021年2月頃まで

場 所 裏磐梯高原ホテル

(4) 芸術文化活動拠点提供(定款第4条第5号)

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

ア 東京都建築士会 「住宅課題賞」企画展

内 容 関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示

期 間 2020年10月2日から2020年10月16日まで

方 法 資料展示、パネルと映像資料による解説

(5) 調査研究及び資料収集(定款第4条第6号)

建築文化に関する調査研究及び資料収集

ア 過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究

内 容 過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。

期 間 2020年1月1日から2020年12月31日まで

イ 企画・出版・教育・広報事業の調査研究

内 容 企画コンテンツの出版化について調査研究をする。

期 間 2020年1月1日から2020年12月31日まで

3. 法人の管理運営

- ①内部統制システムの整備推進
- ②長期将来ビジョン構想の推進
- ③共育プログラムの継続

以上